第８回　北海道スーパートーナメントトーナメント　開催要綱

◆主催　　一般社団法人　北海道チャンピオンシップ協会
◆特別協賛　　北海道日刊スポーツ新聞社　　トップインターナショナル株式会社
◆協力　チャンピオンシップ 2019 サポートカンパニー
◆参加条件　POP アスリート大会エントリー必須
◆方式　３ラウンド制　出場チームは最低 2 試合消化 ラウンド１ 7 月下旬をめどに 3 チーム総当り戦　1 位がラウンド２へ進出 ラウンド２　８月上旬～下旬　３チーム総当り戦、又は 4 チームトーナメントで 1 位がファイナルへ進出 ファイナル１（準々決勝）９月上旬　ファイナル２(準決勝･決勝）　９月中旬　会場未定
◆対象　　北海道内の小学生野球チーム
◆会場　　運営本部が指定（道内一円）
◆選手　　小学 6 年生以下の男女（道内在住）でスポーツ障害保険に加入していること
◆上位チームは下記大会の出場権を獲得
・2019 KING of KINGS 第９回北海道チャンピオンシップ少年軟式野球大会（10 月上旬・開催地 釧路）
・第 13 回学童軟式野球全国大会ポップアスリートカップ北海道予選（３チーム）
●参加料　　パートナーチーム 12,000 円　その他のチーム(オープン参加) 15,000 円
●支払い期日　2019 年６月７日まで
●振込み先　　名義　一般社団法人北海道チャンピオンシップ協会
【北海道銀行】美唄支店　普通　0697000
【ゆうちょ銀行】店名：九七八　店番：978　普通　1540575
(郵便局同士)記号　19700　番号　15405751
・組み合わせは運営本部が抽選の上、申込締切後にホームページ上で公開。
・本部は参加チームが勝ち進んでいる他の大会のスケジュールを十分考慮する。
・開会式は行わない。数の関係上、ラウンド１のシードチーム(不戦勝）を選定する場合がある。
・シードチーム選定は協会本部が独断で行うものとし、前年の U-11 対象の公式戦全てを参考とする。
・参加希望各チームはラウンド１参戦可能日を早めにお申し出ください。
●試合結果報告　パートナーチーム、オープン参加チームを問わず、自チームの該当する試合結果は、試合終了後 3 日以内に必ず協会試合結果担当(result@championship.or.jp)まで報告をしてください。

この要綱は全部で 3 ページあります。
大 会 規 則 適用規則 2019 年公認野球規則及び特別規則を適用する。
特別規則 1．登録選手は 20 名以内とし、選手、監督は同色、同型、同衣装のユニフォーム、アンダーシャツ、 野球帽、ストッキングを着用しなければならない。ベンチに入る大人は 5 名以内とする。
2．試合中の抗議は、監督以外は認めない。
3．投手は変化球を禁止する。変化したか否かは審判員が判断する。
4．選手の手袋着用は可。グランドコートの着用は禁止（ベンチ内は可)。ただし、気温が低すぎる場合 は審判の判断で着用を許可することがある。
5．試合は全て時間制限なしの 7 回戦。ただし 4 回終了以降、7 点差以上の場合はコールドゲーム。
6．ラウンド 1、2 における三つ巴戦（総当たり戦)については次のようにする。 7回終了し、同点の場合は引き分け。勝者には勝ち点 2、引き分けは両チームに勝ち点 1 を与える。（1）勝ち点が多いチームが次ラウンドへ進出。 （2）勝ち点が並んだ場合の順位のつけ方 ※ａ 得失点差（総得点マイナス総失点）の多い順 ※ｂ ａで順位付けしても２チームが並んだ場合→２ チームともに次ラウンドへ進出 ※ｃ ａで順位付けしても３チームが並んだ場合→日を改め再試合（総当たり戦）を行う。
※※重要 得失点差の計算をする場合→ コールドゲームの試合は全て 7 対 0 で計算する。
7．トーナメント戦では 7 回裏終了時点で同点の場合、特別促進ルールを適用。次のように行う。先頭打者は自由とし、その前の打順の二人を二塁、三塁に置き、無死から攻撃開始とする。
8．試合時間が 2 時間半を超えた時点、あるいは 2 時間半時点で決着がつかないと予測できる場合には、引き分けとする。区切り時間の判断は球審に一任する。トーナメントの場合は後日再試合とする。
9．試合予定時刻を過ぎても到着しない（連絡がない等)場合は棄権としたものとみなす。
10. 試合前に球審へオーダー表を 2 部提出すること。放送設備がある会場では 3 部提出。
11．試合の進行に係るすべての権限は球審にある。
12．使用球は、トップボール J 号とし、大会運営本部、またはホストチームが用意する。
13．ロージンバックは各チームが用意する。
14.同じチームが連戦になる場合、最低 20 分～30 分は時間を空けること。大会の運営について当協会主催大会では次の点を調整しながらスケジュールを組んでおります。
・大会出場チームは最低 2 つの試合ができる。
・違う地区、支部のチームを対戦相手とする。または他の 大会で最近対戦した（する予定

のある）チームを極力避ける。以上を実現するため、当協会主催大会は 序盤戦において「3チーム総当たり戦」あるいは「4 チームトーナメント」を複数の会場で実施すると いう独自のスタイルをとっております。例えばこういう感じです。「ラウンド 1」96 チームを 32 グループに分けて総当たり戦。→→「ラウンド 2」ラウンド１の勝ち残 り 32 チームを８グループに分けて 4 チームトーナメント、または 3 チームリーグ戦 →→「ファイナル」準々決勝以降は通常トーナメント そして、「ラウンド 1」「ラウンド 2」では、運営管理をホストチームにお願いしております。ホストチームについてホストチームとは「グラウンド（試合会場）を提供し、会場の運営管理をするチームのことです。ホストチームは会場を提供し下記の役割を果たすことで、移動せずに試合を消化することができます。ホスト希望のチームは事前にお申し出ください。ホストチームは協会パートナーチームに限ります。

・会場づくり～グラウンド整備、ライン引き
・来場チームの誘導
・試合消化管理～対戦が正しく行われているかの確認（来場チーム、審判の管理等）
・試合球（トップボールＪ号）を事前に準備ください。（本年度協会支給ボール使用）
・球審用のマスクを一つ用意してください。審判について球審 1 名をホストチームまたは協会で用意します。他 2～3 名の塁審を各チームから出していただきます。（コーチや経験のある父兄等を事前に準備願います。） 自チームに関係のない試合の塁審を行っていただきます。準備できないチームは事前にお伝えください。その他 当協会の大会は、地区の垣根を越えて技術交流する場です。各チームは時間をかけ移動し、試合します。どういう結果になってもお互いをリスペクトし、次へ繋がる有意義な時間としてください。
・ロージンバックは各チームで用意してください。
・選手の到着が遅れた場合でも、30 分以上のウォーミングアップ時間を必ず与えてください。 参考）

塁審について

１．姿勢 経験の多い方に助けてもらいながら、公平なジャッジで試合を成立させるよう努めましょう。 当協会の試合は時間制限なしの７回戦です。常にスピードアップを徹底させてください。 判定には自信を持つこと。一番近くで見て、そう判断した。その事実を覆すことは誰にもできません。

２．ジャッジのポイント ・ジャッジを下す前は、停止してプレイを良く見ること。走りながらのジャッジはだめ。 ・「セーフ」の場合はすぐアクション。「アウト」は捕球等動作が完了したのを確かめてから一呼吸 おいてアクション。

・フェアは発声しない。ファールのときだけ「ファウルボール」と発声する。
・ホームから一塁ベース、三塁ベースまでの打球のフェア、ファウルの判定は球審がする。
・内野フライ
・内野ライナー
・インフィールドフライ

・故意落球の判定は球審にまかせましょう。

３．ボーク あきらかに走者が不利益を受けた場合でなければ、スルーして下さい。あるいは注意をして下さい。ただし、セットポジションで静止しなければ、注意なしでボークを取ってください。これは少年野球で最も多いボークです。厳しく徹底させてください。